

区分・種別	県指定有形文化財（彫刻）		
名 称	もくぞうやくしによらいざぞう 木造薬師如来坐像 1 軀		
所 在 地	新居浜市高木町		
所 有 者	河内寺	管 理 団 体	
指定年月日	昭和54年9月14日		
解 説	<p>河内寺のある高木町は、その昔河内村といい、その後金子村と改められた地である。真言宗善通寺派の寺で、境内からは飛鳥時代の布目瓦<small>ぬのめがわら</small>が多数発見され、五重塔のものとみえる礎石が13個残っており、このあたりが古代の寺院跡と推定されている。</p> <p>本尊の薬師如来坐像は、像高91.5センチメートル、臂張り<small>ひじ</small>54.2センチメートル、膝張り70.3センチメートル、一木造、彫眼の坐像で、切付螺髪<small>らほつ</small>、肉髻<small>につけい</small>高く、両眼は細く長く、結んだ口もとは強い力がこもっている。面相は豊満で密教特有の威厳に満ち、右肩より左脇下に流れる衣文<small>えもん</small>は、古い一木造によくみられる粗豪さがあり、右手と薬つぼを持った左手は、後補のものと思われるが比較的調和が保たれている。</p> <p>昭和41（1966）年に修理の際、阿弥陀経の印本が発見されたが、寛文8（1668）年の墨書があり、修理のとき納められたものと思われる。膝前の衲衣には翻波式の彫法が見られる。製作は平安時代もかなり古く、10世紀末から11世紀ころとみられる。</p>		

